



# 生活支援体制整備事業 事例集



～豊かで多様なつながりのある地域を  
目指して～

# もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

## <城乾・東光包括エリア>

実践報告 1 【安室地区】・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

「公民館の保健室」を活用し、地域での生活課題に関する意見交換の推進

実践報告 2 【曾左地区】・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4

地域の特色に応じ、小地域単位での意見交換の推進

## <北包括エリア>

実践報告 3 【砥堀地区】・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

既存の会議や活動を活用したまちづくりの推進

## <飾磨包括エリア>

実践報告 4 【高浜地区】・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

地域課題に応じたワーキングチームを発足し、住民主体による話し合いの推進

実践報告 5 【飾磨橋西地区】・・・・・・・・・・・・ P10

高齢者の通いの場を地区内に広げる取組

実践報告 6 【的形地区】・・・・・・・・・・・・ P12

認知症についてみんなで学び支え合う地域づくり

## <広畑包括エリア>

実践報告 7 【広畑第二地区】・・・・・・・・・・・・ P14

地域の活動を次世代につなぐための取組

実践報告 8 【大津茂地区】・・・・・・・・・・・・ P16

認知症についてみんなで学び支え合う地域づくり

実践報告 9 【余部地区】・・・・・・・・・・・・ P18

地域課題に応じた住民主体の取組と多様な主体との協働による地域づくり

～はじめに～

生活支援体制整備事業は、従来のような全国での画一的なサービスの実施ではなく、各自治体と各地域の創意工夫による地域づくりを通じて高齢者の生活を支えることを目指した取組です。一方で、事業開始から5年以上が経過していますが、どこからどのように着手すればよいのか、どうすれば目指す地域づくりにつながったといえるかが分かりにくい面もあります。

今回、豊かで多様なつながりのある地域を目指して、市内のいくつかの取組を事例集としてまとめることとしました。

これらの事例を参考に、住民主体による地域づくりに、ボランティア、NPO法人、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な主体と協働し、行政・社協・包括が連携を図りながら取組を進めていければ幸いです。



## 【安室地区】

人口:11,983人 高齢化率 25.1% (令和3年3月現在)

# 「公民館の保健室」を活用し、地域での生活課題に関する意見交換の推進

### 地域の概要

安室地区は、夢前川の流れとともに悠久の歴史を刻んできた大変歴史の深い地域です。交通の拠点として人々の往来も多く、古くから仏教文化の栄えたところでもあります。生涯学習・好古学園大学校の生涯教育施設と、安室小学校、安室中学校、職業訓練センター、図書館安室分館、児童センターの教育関連施設、中高年ワークルーム、サンライフ姫路など中高年の学習施設が整っています。

### 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	令和元年9月	公民館講座	34人	いつまでも「公民館の保健室」に元気で参加し続けるために、生活上で困っていること、また、困りごとに対し何があればうれしいかについて意見交換 ・包括より住民同士の支えあい・繋がり大切さをテーマに寸劇実演	
第2回	令和2年9月	公民館講座	25人	いつまでも「公民館の保健室」に元気で参加し続けるために、生活上で困っていること、また、困りごとに対し自治会単位で何があればうれしいかについて意見交換	各町の自治会長、民生委員、老人会も参加
第3回	令和3年9月	公民館講座	41人	地域で役割を担っている住民で、身近な課題と解決に向けた方法を話し合った。	各町の自治会長、民生委員、老人会も参加

### 取組の成果

「公民館の保健室」を活用し、住み慣れた地域で最期まで生活を継続するために、各地域で抱える課題を抽出・共有することができた。

### 今後の展望

「公民館の保健室」を活用し、各地域で抱える課題の解決に向けた取組について検討していく。  
各地域で困りごとが生じたとき、地域で気軽に話し合えるようにしていきたい。



## みんなが通う「公民館の保健室」

ふだんは楽しく学んでおしゃべりしています。

会議の時には、地域でいろいろな役割を担う方たちにも参加してもらい、安室地区について話し合っています。

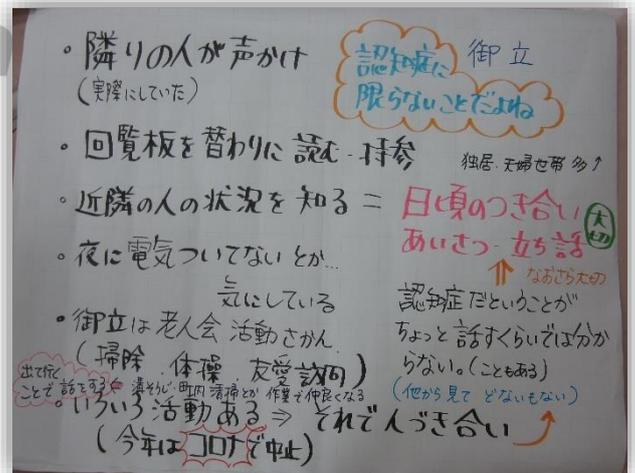
第1回



第2回



第3回



通いの場として、「公民館の保健室」に参加し続けることを目指し、いつまでも住み慣れた地域で過ごせるために今から準備していきます。



少子高齢化社会に地域で健康に過ごすには、自助・互助・共助が大切。地域のみんなが、自分でできることに取り組み、お互いに助け合いながら生活することが大切。

## 【曾左地区】

人口:11,023人 高齢化率 28.6% (令和3年3月現在)

### 地域の特色に応じ、小地域単位での意見交換の推進

#### 地域の概要

古くから名刹書写山円教寺のある聖地で、自然に恵まれ、山上の古杉、夢前川の清流に伝統ある歴史を伝えている地域です。近年、分譲住宅、市営住宅、県営住宅の建設が進むに従って戸数、人口とも急増の一途をたどり、大きく変貌を遂げてきました。校区には、公私立の保育園・幼稚園・高等学校・大学・特別支援学校・公民館など教育施設がそろっています。

#### 取組の推移

	開催時期	参加人数	主な内容	備考
第1回 (校区全体)	平成29年7月	22人	・曾左地区の現状と地域活動について～ 自助、互助のすすめ～ ・「曾左地区で楽しく、安全・安心に暮らす ために」をテーマに意見交換	
第2回 (校区全体)	平成29年12月	22人	前回の振り返り 今後の進め方について検討	校区全体での検討は 難しいと判断
第1回 (東坂地区)	平成30年9月	19人	「東坂が抱える課題・今後の方向」をテ ーマに意見交換	東坂地区をモデルケ ースに選定
第2回 (東坂地区)	平成30年12月	21人	前回の意見交換で出た課題の掘り下げ	東坂地区の検討会 議メンバー 自治会三役経験者、 民生児童委員、老人 会、農区長、お宮の 総代、曾左公民館長
第3回 (東坂地区)	平成31年3月	20人	前回あがった課題より「老人会の存続に ついて、結束するにはどうすればよいか」 をテーマ意見交換	
第4回 (東坂地区)	令和元年7月	22人	今後の老人会活動について	

#### 取組の成果

- ・各自治会の課題を明確化・共有することができた。
- ・高齢者の生活を支える仕組づくりを検討中。

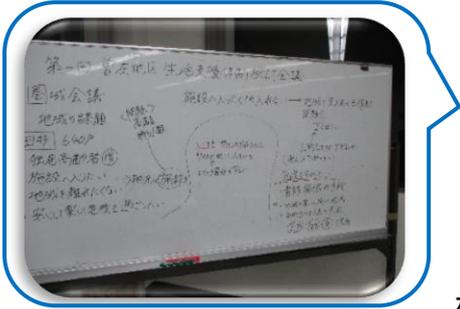
#### 今後の展望

モデル地区の会議開催方法をもとに、各自治会で生じている課題に対し、地域に応じた解決方法を検討していく。

# 地域展開の様子



## 第1回



## 第2回



校区全体で話し合いをしたけれど・・・

曾左地区は広い！町ごとの特色も違う！

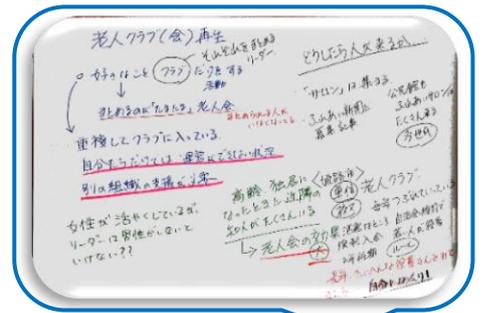
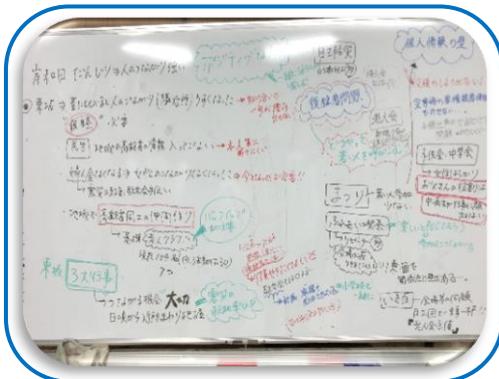


小地域単位（単位自治会）での会議をしてみよう！

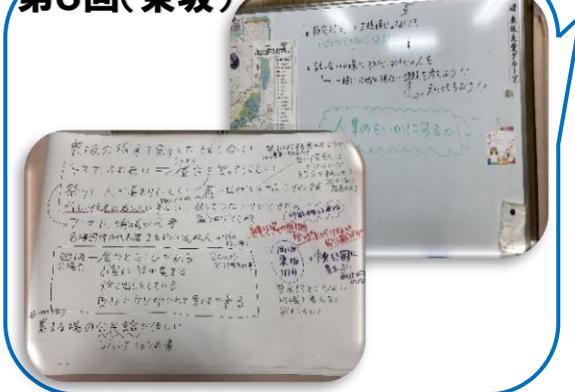
自分の住む地域が「こうなったらいいよね」という思いで話し合い、実現に向けての取組をみんなで考える

## 第2回(東坂)

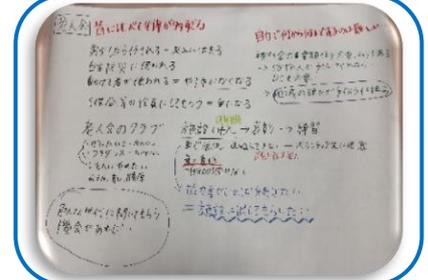
## 第1回(東坂)



## 第3回(東坂)



## 第4回(東坂)



地域住民が、自分の住む地域の気になることをみんなで話し合い、住んで良かった町づくりを行っていきます。

## 【砥堀地区】

人口：6,526人 高齢化率 23.7%（令和3年3月現在）

# 既存の会議や活動を活用したまちづくりの推進

### 地域の概要

西を増位山からの山々、東に市川が流れ、交通面では、播但道ランプや山陽道にも近く、JR 播但線の砥堀及び仁豊野駅があり、利便性の高い地域です。近年、住宅地域が増え、人口が増加しています。子々孫々まで住み続けたい『安全・安心のまちづくり』を推進しています。

### 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	令和元年5月	仁豊野 ふれあいサロン	48人	介護予防の啓発 事業説明	
第2回	令和元年8月	社協支部理事会	18人	事業説明	
第3回	令和元年9月	仁豊野 ふれあいサロン	52人	グループワーク「砥堀にある 活動、つながり、80代90代 になっても続けたいこと」 地域つながりマップづくり	
第4回	令和元年12月	社協支部理事会	19人	地域つながりマップを共有 砥堀での進め方を検討	
第5回	令和2年1月	仁豊野 ふれあいサロン	80人	通いの場継続の重要性 健康寿命を延ばす秘訣	
第6回	令和2年8月	社協支部理事会	25人	仁豊野ふれあいサロンでの 生活支援体制検討会議の 報告 次年度に向けて、他地区で の開催の意向を確認	

### 取組の成果

- ・地元の会議や講座と同時開催することで、地元と専門職の負担軽減が図られ、継続的な会議開催につながる。
- ・大人数の集まるサロンを活用することで、リラックスしてグループワークが行え、気負わずレクリエーションの延長のように楽しみながら取り組むことができた。

### 今後の展望

キーパーソンが交代しても「砥堀の強みは人材！」といえる地域づくりができるよう、人の輪を拡大していきたい。  
次世代の担い手育成、活動の場の継続を行いながら、「何ができるかな」をみんなで考えられる砥堀を目指します。



仁豊野ふれあいサロン  
～生活支援体制検討会議～



楽しい雰囲気そのままに♪  
自分たちの地域のおさらいから、  
日頃思うことを自由におしゃべり。  
楽しくしている「今この瞬間」が、健康  
寿命を延ばしていたなんてね。  
そんな仲間を増やすには、どうしたら  
良いだろう。  
そんなところから、課題を拾って広げ  
ていくのが砥堀流☆

## 【高浜地区】

人口:14,255人 高齢化率 17.5% (令和3年3月現在)

### 地域課題に応じたワーキングチームを発足し、住民主体による話し合いの推進

#### 地域の概要

高浜地区は、東に市川、野田川と外堀川を挟み、南には飾磨津、JR 姫路駅や官庁街にも近く、姫路バイパスと駅南大路、飾磨バイパス・市川浜手大橋、市道大日線も開通し交通の要衝となっています。区画整理事業が完工し、恵まれた立地条件のもと新興住宅が増えつつあり、人口増加と多様化がみられます。他の多くの地域では少子化の波により子どもの数が減少しているが、当地域では子どもの数も増加しています。

#### 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	平成28年12月		47人	地区内の地域活動の紹介、地域活動マップづくり	
第2回	平成29年4月		47人	グループワーク「地域活動に参加したことがない人を、参加できるようにするには？」	会議の名称決定「高浜会議」
第3回	平成29年9月		101人	「高浜 わが事 自分ごと」(motto ひょうご 栗木氏)	
第4回	平成30年4月	社協支部総会 各種団体協議会	67人	地域活動・こども食堂取組紹介、高齢者疑似体験	
第5回	平成30年12月	民生委員・自治会 合同研修会	37人	地域活動・社協支部活動・地域の福祉法人・こども食堂 Kul・認知症ケアパス紹介	
第6回	令和元年5月	社協支部総会	73人		
第7回	令和2年2月	各種団体協議会	75人		
第8回	令和2年8月	各種団体協議会	75人	地域づくりアンケート結果報告、ワークショップ設置、第1回各団協懇話会	
第9回	令和2年12月		40人	母子保健事業・社協支部活動・地域活動紹介、懇談会	
第10回	令和3年7月		65人	ワーキングチームでの議論	テーマ「環境美化」「安全安心」「子育て居場所作り」

#### 取組の成果

- ・各種団体や福祉・行政機関が一同に会する高浜会議にて、参加者みんなで校区の課題を共有し、問題点に対してスピーディーに対応している。
- ・高浜地区づくりアンケートを実施。アンケート実施結果により、「環境美化」「安全安心」「子育て居場所作り」をテーマにワーキングチームが発足し、議論を深めている。

#### 今後の展望

3つのテーマに関するワーキングチームでの話し合いを基に、高浜校区の地域づくりの取組を進めていく。スマートコミュニティーを進め、役員の負担を軽減できる仕組みづくりを行っていく。



第1回



第2回



第3回



高齢者疑似体験



第5回



第6回



第7回



各種団体協議会や地域の福祉施設・行政機関など、高浜校区に関する多くの組織が集まって高浜会議が開かれています。ワーキングチームでの話し合いを元に、高浜会議で課題を検討し、各種団体が同じ思いを持って課題解決に向け、協力して取り組む仕組づくりが行われています。スマートコミュニティを進めるため、ICTを活用した取組も進んでいます！

## 【飾磨橋西地区】

人口:1,146人 高齢化率 40.7% (令和3年3月現在) ※一部地域除く

# 高齢者の通いの場を地区内に広げる取組

## 地域の概要

飾磨橋西地区は、姫路市南端の海岸部に位置し、早くから産業、交通の要所として栄えてきた歴史と文化を誇る地域です。地域の中心部には、大型量販店を有し、港の玄関として播磨工業地帯の一角を占め、また、家島諸島や小豆島とを結ぶ定期旅客船が就航する等多面性を持つ地域です。

## 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	平成28年11月		29人	地区内の地域活動の紹介、地域活動マップづくり	
第2回	平成30年2月		21人	事業説明、前回の振返り グループワーク「もう少し橋西地区に集いの場を増やすにはどうすればいいか？」	会議の名称決定 「橋西いきいき会議」
第3回	平成30年12月		27人	グループワーク「みんなで話をする場、集いの場を増やすにはどうしたらよいでしょうか？」	
第4回	令和元年6月	社協支部総会	27人	認知症サポーター養成講座	
第5回	令和2年6月	社協支部総会	64人	消費者被害、認知症について勉強	
第6回	令和3年3月	公民館講座	22人	介護予防体操 (講師:健康運動指導士)、 通いの場の啓発	
第7回	令和3年6月	社協支部総会	52人	いきいき百歳体操の啓発 (講師:健康運動指導士)	

## 取組の成果

- ・回を重ねるごとに会議が住民にも定着し、住民の側から内容の要望がある。
- ・地元の会議や講座と同時開催することで、地元と専門職の負担軽減が図られ、継続的な会議開催につながる。
- ・通いの場(いきいき百歳体操)の活動場所が増加。地区内1か所→3か所→4か所目を検討中

## 今後の展望

少子高齢化が進展し、課題となっているのは「活動の継続」と「担い手不足」です。人とひととのつながりを次世代に受け継ぎ、互いに支えあいながら安心して暮らせるよう、地域活動を継続させていきたい。



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



飾磨公民館



港



宮



第6回の健康運動指導士の方が好評で、第7回にも地元から要望。第7回に参加された方もいき百の効果と魅力を感じ、自身の地区で新たに立ち上げを検討中。会議を重ねることで、住民の思いも広がり、通いの場も地域内で広がっている。

## 【的形地区】

人口:5,632人 高齢化率 33.6% (令和3年3月現在)

# 認知症についてみんなで学び支え合う地域づくり

### 地域の概要

的形地区は、高齢化率の高い旧地域と壮年層の多い新興住宅街に分かれます。校区の人口は、減少傾向にあり、また高齢化が進んでおり、地域活動は高齢者が中心で行っています。

### 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	平成29年8月		36人	タウンミーティング報告、 的形について語る 『的形ってこんなところ』	
第2回	平成29年12月		17人	地域包括支援センター・生活支援体制検討会議説明	会議の名称決定 「的形ようしょう会」
第3回	平成31年2月		24人	会議趣旨説明、前回までの振返り、他地区の取組紹介、地域活動マップにて地域課題の確認	
第4回	令和元年6月	公民館講座	27人	認知症声掛け訓練の準備と進め方打合せ	
第5回	令和元年8月		35人	認知症声掛け訓練の準備と進め方打合せ	
第6回	令和元年11月		95人	認知症声掛け訓練実施計画の最終確認	ボランティアや地域住民80人参加
第7回	令和元年11月		320人	認知症声掛け訓練の実施 同時進行で、行方不明者を想定した訓練放送実施	
第8回	令和2年10月	公民館講座	34人	認知症サポーター養成講座	

### 取組の成果

- ・地域課題が明確になり、認知症になっても住み続けられる地域を目指すことになった。
- ・警察や消防など関係部署も巻き込んで、地域住民・ボランティア等併せて300人を超える多くの方が参加し、認知症声掛け訓練を実施。認知症の方への対応方法について地域全体で学ぶことが出来た。

### 今後の展望

公民館を中心に、自治会や警察・消防等、地域の関係団体と協力しながら、人口減少や高齢化が進んでも、地域のつながりを大切に、安心して生活出来る的形地区を目指していきます。



第1回



第2回



第3回



第6回



認知症になっても住み続けられる地域を目指して、声掛け訓練を実施。高齢者だけでなく、子どもや関係部署等、300人を超える方が参加。公民館でも、認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症に関して地域全体で理解を深める取組が進んでいます。

## 【広畑第二地区】

人口：12,728人 高齢化率 19.4%（令和3年3月現在）

# 地域の活動を次世代につなぐための取組

### 地域の概要

戦後、鉄鋼業を基幹とした経済の著しい発展に伴い、急激な人口増によって昭和31年に誕生した新しい地域です。北部に京見山、JR 山陽本線の南には工場や広畑港を包含する広大なエリアで、近年、JR はりま勝原駅の開業に伴い、さらに都市化が進み、人口も増加しています。

### 取組の推移

	開催時期	参加人数	主な内容	備考
打合せ	平成28年10月	31人	事業説明、圏域会議の進め方について	各自治会役員・社会福祉協議会支部役員参加
打合せ	平成29年6月	19人	前回の振返り アンケート実施について意見交換 (内容、配布、時期)	7/5 校区人権リーダー研修の時に各種団体に配布。各種団体がアンケート用紙を配布、回収。
第1回	平成30年2月	29人	アンケート集計結果について討議 「アンケートの結果をみんなで考えよう」	会議の名称決定 「広二 愛溢会」
第2回	平成30年9月	24人	グループワーク 「広畑第二地区の宝物さがし」	
第3回	平成31年3月	28人	グループワーク 『宝物さがし』の強みを深めて 認識し合った内容を次世代につなぐためには	姫路市生活支援体制検討会議エリア代表として、発表した内容を共有した。
第4回	令和2年2月	33人	グループワーク、意見交換 「各種団体の取組を知ろう！」	
打合せ	令和3年 6～8月	10人	アンケート結果を見直し、課題に対して 取り組める内容を検討する。	地域と専門職が検討しやすい人数(メンバー)を絞って再スタートを図る。

### 取組の成果

アンケートの結果、広畑第二地区の地域資源や課題を把握することができた。地域の強みとして、①環境がよい。②住民同士の見守りができている。③組織力が強い。次世代につなぐための課題として、①世代間交流が大事。②便利がゆえに地域住民同士のコミュニケーション不足。③役員の成り手不足があげられた。

### 今後の展望

少子高齢化が進展し、課題となっているのは「活動の継続」と「担い手不足」です。人と人とのつながりを次世代に受け継ぎ、互いに支えあいながら安心して暮らせるよう、地域活動を継続させていきたい。



第1回



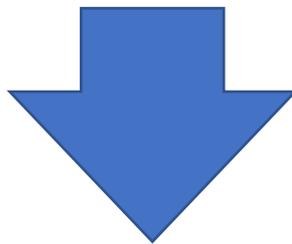
第2回



第3回



第4回



各種団体の取組を次世代へつなぐために地域のイベントでパネル展示等を行う。

広畑第二校区のスローガン「**愛と対話と信頼に溢れる広二(まち)を目指して!**」

を目標に、多くの地域福祉活動に取り組んでいます。これからの高齢化社会に向けて、「地域の世代間交流」「通いの場」などの活動の啓発をはじめ、地域と専門職が連携を図りながら地域づくりに取り組んでいきます。

これまで、住民アンケートを行い、課題抽出し、住民・専門職による協議を丁寧に進めてきましたが、課題整理から取り組むべき方向性が定まらない状況が続いていました。協議の進め方を見直し、取り組みやすい内容から着手していくことで再スタートしていきます。



## 【大津茂地区】

人口:8,361人 高齢化率 20.0% (令和3年3月現在)

# 認知症についてみんなで学び支え合う地域づくり

### 地域の概要

大津茂川の豊富な水源を利用した稲作農業の地域でした。昭和49年に小学校新設により出来た新しい地区です。近年は大型店舗や新興住宅地が多く建設され、多様な住民が居住して、比較的若い世代が増えている地域になっています。

### 取組の推移

	開催時期	既存の場の活用	参加人数	主な内容	備考
第1回	平成30年6月		28人	・事業説明 ・認知症高齢者の徘徊時 検索訓練の趣旨説明等	9月 認知症サポーター養成講座の実施
第2回	平成30年12月		58人	認知症高齢者等への声かけ 模擬訓練(3グループに分かれ 検索)	訓練後アンケートは専門職で集約。
報告会	平成31年2月	社協支部 事業報告会	44人	声かけ模擬訓練のアンケート 結果の報告	
第3回 ①大津東団地	令和元年10月		39人	認知症勉強会 ～認知症の初期段階に気づき・ 対応・準備する～	
②田井	令和元年11月		21人	認知症勉強会・意見交換	
③のぞみ野	令和元年12月		26人		
④あやみ野	令和元年12月		46人		
⑤みやび野	令和元年12月		17人		
第4回	令和2年2月	社協支部 事業報告会	45人	認知症気づきの勉強会実施 報告(5町)	
第5回	令和3年2月	社協支部 事業報告会	48人	生活支援課題の共有	

### 取組の成果

認知症高齢者等への声かけ模擬訓練を実施し、町ごとに認知症勉強会を継続中。比較的若い世代が増えている地域ですが、10年先を見据えて少子高齢化問題への対応について進められている。

### 今後の展望

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域での見守りやつながりが持てるように内容をステップアップしながら、勉強会や認知症サポーター養成講座を含めて継続して行っていく。



第1回



第2回



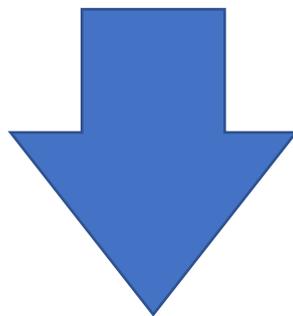
声掛け模擬訓練



第3回 5か所で  
認知症勉強会開催

～認知症の初期段階に気づき・対応・準備する～

第4回



第5回



認知症の方とその家族を地域ぐるみで支援するため、すべての地域住民を対象とする認知症の勉強会を開催する



認知症について学習するだけでなく、同じ地域に暮らす住民同士で意見交換し、交流を深められています。勉強会に参加した方を中心に、認知症を見守る体制づくりや介護者の集い、災害時要援護者支援の取組にもつなげていきたいと考えています。

## 【余部地区】

人口： 4,755 人 高齢化率 26.2%（令和3年3月現在）

### 地域課題に応じた住民主体の取組と多様な主体との協働による地域づくり

#### 地域の概要

余部地区は、姫路市の最西部にあり、揖保川下流の左岸に位置し、自然豊かで風光明媚な地域です。高度成長期は、大企業、東芝の城下町で栄えていた地区でしたが、事業撤退後は、企業社宅や市営住宅のベッドタウンの様相が、現在住宅分譲地へと変化しています。自治会は4町あり、約1,700世帯の町です。直近の概況は、高齢者対策が進む社会で、一人暮らし高齢者や高齢夫婦の日常生活において、買い物・交通・医療の利用が不便になってきています。

#### 取組の推移

	開催時期	参加人数	主な内容	備考
打合せ	平成30年 5～8月	約30人	・事業説明 ・今後の進め方	住民へのアンケートについて、対応策・問題点について打合せを行う。
報告会	平成30年10月	32人	アンケート集約内容の報告会	9月に集計し、自治会にてアンケート集約した冊子を回覧された。
報告会	平成31年2月	28人	アンケートの結果による現状の問題点と実施内容の報告	交通、コミュニティ関係（旧幼稚園の活用）、防災、生活、環境について、自治会主導で検討
打合せ	令和元年6月	10人	報告会の振り返り	
打合せ	令和元年 9～10月	11人	進捗状況、情報交換 第1回余部地区生活支援体制検討会議について打合せ	・移動販売「新鮮組こだわり隊」が2か所で実施。 ・住民同士の助け合い「余部お助け隊」→あんしんサポーターの案内。
第1回	令和元年11月	31人	自治会より、地域課題の進捗状況を発表。（移動販売、余部お助け隊、旧幼稚園跡地活用、バスや乗り合いタクシーについて等）	お助け隊のボランティアを募集。（自治会で町内の協力者等はリサーチ済）あんしんサポーター受講者募集チラシ回覧し、数名受講された。
打合せ	令和2年10月	9人	次回の会議について打合せ	「認知症の人を地域で支えましょう。」をテーマで開催する予定。

#### 取組の成果

アンケートの結果、余部地区の地域資源や課題を把握することができた。自治会中心に結束力の強い地域であるため、自治会主体でアンケートを集計し、取りまとめたものを解決に向けて、スピーディに対応された。移動販売を実施したことで、買い物弱者の課題解決だけでなく高齢者の交流の場にもなっている。住民同士の助け合い「余部お助け隊」を募集し、地域で活動されている。

#### 今後の展望

多様な関係機関と連携を図りながら、従来からの活動や将来を見据えた新事業の検討を進めていきたい。



### 第1回 生活支援体制検討会議



### 地域住民へのアンケート

回覧方法、問題点、対応策、について話し合い



### 移動販売★新鮮組こだわり隊



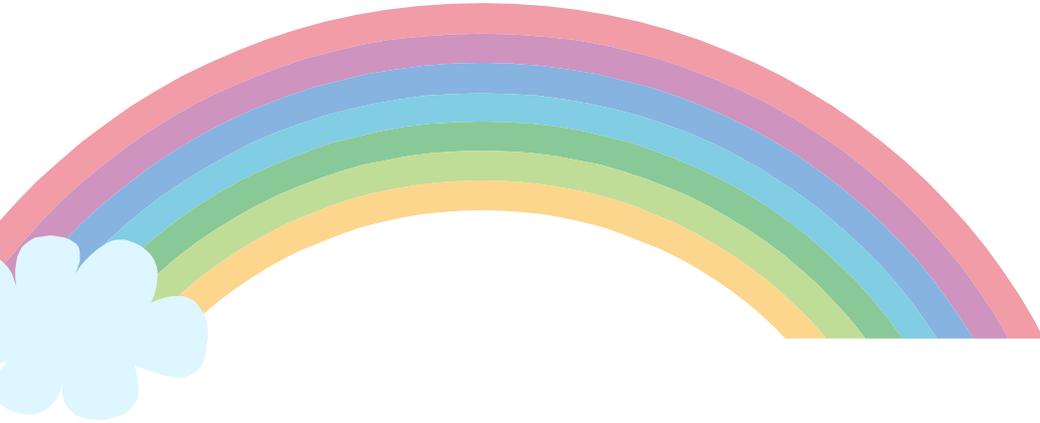
### 余部お助け隊

高齢者のちょっとした  
困りごとを、地域で助  
け合っていこう！  
あんしんサポーター  
養成講座を受講して  
みよう。

地域住民が自分の住む地域が「こうなったらいいよね」という  
思いで話し合い、その実現に向けての取組をみんなで考える



少子高齢化が進む社会にあって、必須となるのは、自助・互助・公助の社会です。地域みんながお互いに助け合いながら生活することが大切になります。いずれ来る超高齢社会にあって、若い労働力不足で、困っている現状がもっと加速する…その様な将来を見据えて、住んで良かったといわれる地域づくりの準備を、すでに取り組まれています。



令和3年12月  
発行：社会福祉法人  
姫路市社会福祉協議会